

## 事例紹介記録

### < 報告者 >

春日 伸枝 氏 (大阪府高槻市立五領小学校 教諭)

小杉真一郎 氏 (福井県福井市社北小学校 教諭)

高橋 広行 氏 (京都府宇治市立岡屋小学校 教頭)

### < 司会者 >

澤田 真弓 (国立特別支援教育総合研究所)

はじめに司会者の澤田より、本セミナーでは「個別の指導計画」「自立活動」「センター的機能」がキーワードとなっており、各分科会ではそれぞれの観点から協議を深めるが、ここでは各キーワードを軸とした先行事例を紹介し、全体的な共通認識を図り分科会に繋ぐという「事例紹介」の位置づけの説明、及び各報告者の紹介があり、続いて各氏からの実践報告が行われた。

春日氏は、「個のニーズに応じた支援・指導を実現するために - 支援の連携ツールとしての「個別の指導計画」 - 」と題して、高槻市立五領小学校の紹介を含め、特別支援教室構想の試行を通して実践してきたことを具体的な児童の事例も交えて報告した。通常の学級で大切にしていること、児童の実態に応じた支援レベルの設定と支援の取り組み等について紹介するとともに、特別支援教育を進めていく上での「個別の指導計画」のツールとしての有効性に触れた(要項 p18-19 参照)。

小杉氏は、「小学校の校内支援体制と自立活動等への取り組みについて - 学校全体でどのように支援していくのか - 」と題して、特別支援学級が設置されている小学校における校内支援の様々なパターン、校内体制を紹介した上で、特別支援学級の授業においていかに自立活動の内容を取り入れるか、通常の学級の児童に対して自立活動的な指導・支援をいかに行うか等について、前任校及び現任校での事例を取り上げながら報告した。自立活動的視点の必要性を全校職員で共通理解することの重要性にも触れた(要項 p20-21 参照)。

高橋氏は、「特別支援学校のセンター的機能を活用して」と題して、通常の学校(小学校)の立場から、特別支援学校のセンター的機能を活用して支援を行った児童の事例や、市の「学校を支援するシステム」を紹介し、センター的機能がうまく機能するための要因を特別支援学校、通常の学校、それぞれの側から整理し報告した。また、日常的に双方が連携を図ることができる体制づくりとともに、通常の学校が特別支援学校のセンター的機能を生かせる力量をつけていくことの重要性にも触れた(要項 p22-23 参照)。